

令和 7 年度 府中市ヤングケアラー実態調査 報告書

令和 8 年 3 月

府中市ヤングケアラープロジェクト

一般社団法人ケアラーワークス・府中市

目 次

1. 調査概要	3
(1) 調査設計	3
(2) 回収状況	
(3) 調査結果の見方	4
2. 単純集計結果	5
(1) 学年	5
(2) お世話をしている家族の有無	
(3) —① お世話を必要としている家族の続柄	
(3) —② お世話を必要としている家族の続柄「その他」詳細（自由回答）	6
(4) —① お世話を必要としている家族の状況	
(4) —② お世話を必要としている家族の状況「その他」詳細（自由回答）	7
(5) —① 行っているお世話の内容	
(5) —② 行っているお世話の内容「その他」詳細（自由回答）	8
(6) お世話をしている頻度	
(7) 一日あたりのお世화에費やす時間（平日）	
(8) 一日あたりのお世화에費やす時間（平日以外の日）	9
(9) お世話をしているためにできていないこと	10
(10) お世話をすることに感じている大変さ	11
(11) お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した経験の有無	
(12) お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した相手	12
(13) —① 相談していない理由	13
(13) —② 相談していない理由「その他」詳細（自由回答）	
(14) 身近でお世話の悩みを聞いてくれる人の有無	14
(15) —① 助けてほしいことや必要としている支援について	15
(15) —② 助けてほしいことや必要としている支援「その他」詳細（自由回答）	
(16) 相談を希望した児童・生徒について	16
(17) —① 意見や要望などの自由記載	
3. まとめ	17
(1) 家族のお世話をしている児童・生徒の把握	17
(2) 家族のお世話の状況	
(3) 家族のお世話をすることによる影響	18
(4) 相談を希望した児童・生徒について	
参考資料	19

1. 調査概要

(1) 調査設計

目 的	本調査では、市内の児童・生徒を対象としたアンケート調査を実施し、ヤングケアラーの状況にある児童・生徒の悩みや困りごと等を明らかにし、その解決に必要な支援につないでいくために実施する。
調査対象者	市立小学校・中学校の小学5年生と中学2年生のすべての児童・生徒 4,114人 小学5年生：2,220人 中学2年生：1,894人
調査方法	各学校を通じて児童向け、保護者向けの調査依頼文を配布し、児童・生徒本人が学校配布のタブレットからWebアンケートフォームにアクセスし回答。
調査期間	令和7年9月16日～10月10日
調査項目	令和5年度に実施した児童・生徒向け調査の項目を基本に、教育委員会、子育て世代包括支援センターみらい、一般社団法人ケアラーワークスで協議を行い、調査票（問）を作成。なお読み仮名あり・なしのフォーム2種を作成した。
調査実施にあたっての留意事項	本調査は児童・生徒に家族や家庭内の様子についてたずねるものであることから、アンケート依頼文およびアンケート説明動画内で、アンケートへの協力が任意であること、答えたくない設問には答えなくてもよいことを伝えた。 説明動画では調査の目的や注意点、活用方法を伝え、調査への安心感を持てるよう、またアンケートに対しての共通認識を持ったうえで回答できるよう留意した。

(2) 回収状況

①全体 回収総数は3,064。うち有効回答数は3,064（74.4%）。

②内訳

調査対象者	配布総数※1	回収総数※2	有効票※3		無効票
			票数	割合	
小学5年生	2,220	1,844	1,844	83.0%	0
中学2年生	1,894	1,220	1,220	64.4%	0
合計	4,114	3,064	3,064	74.4%	0

※1 配布総数：小学生・中学生は各学校在籍者数（令和7年5月時点）

※2 回収総数：ウェブ回答の回収総数

※3 有効票：回収総数から無効票を除いたもの

(3) 調査結果の見方

- 回答結果の割合(%)は有効サンプル数に対し各回答数の割合を小数点第2位で四捨五入しているため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ)であっても合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答(2つ以上の選択肢を選択できる質問)の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対しそれぞれの割合を示しているため、合計が100%を超える場合がある。
- 図表内の「n=」はその設問についての集計対象件数を示している。母集団のデータの数を示す場合は「N=」と表記する。
- 集計サンプル数が少ない属性項目については1サンプルあたりの重みが大きく、比率が変動しやすいため、結果の利用には注意を要する。
- 調査フォーム・調査票上で【学年】について「その他」と回答した、または「無回答」であったケース(計11件)については学年を確定できないため、単純集計・クロス集計における分析対象からは除外した。
- 自由記述による回答の集計・分析にあたっては、個人の特定につながる情報(人名、固有名詞等)をすべて削除したうえで図表の作成および回答例の掲載を行っている。
- 「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることを示す。
- 「お世話をしている家族が『いる』」と回答した児童・生徒が必ずしもヤングケアラーに該当するとは限らない。

2. 単純集計結果

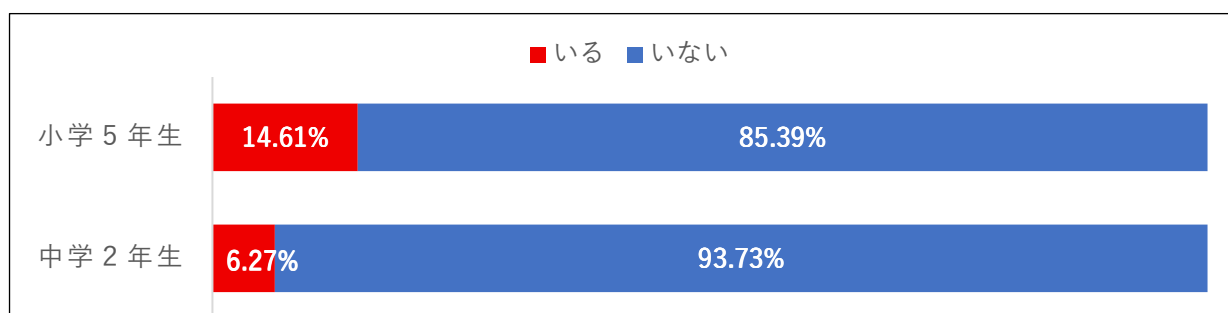
(1) 学年 (問1)

学年については、小学5年生が1,844人、中学2年生が1,220人、未回答は11人であった。

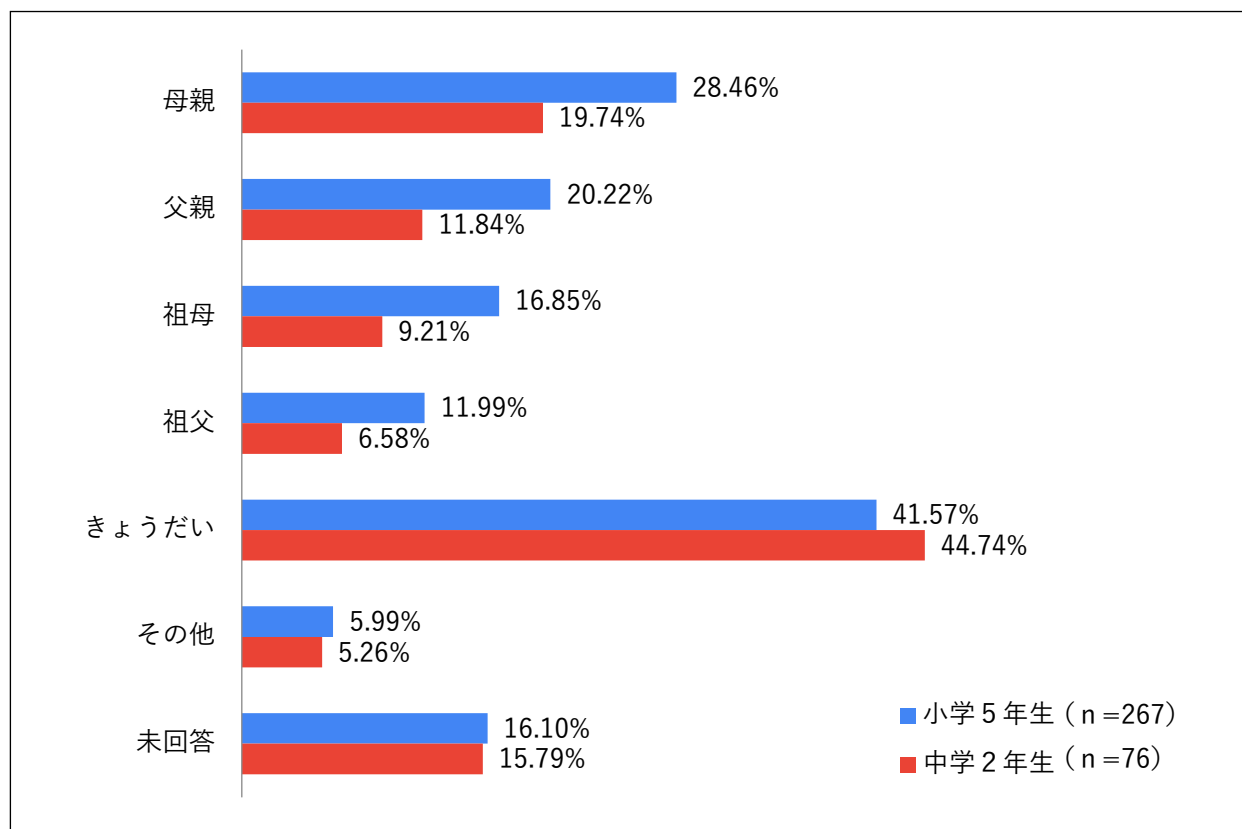
1. あなたの学年を教えてください。 (あてはまるもの1つにチェックしてください)	N
小学5年生	1844
中学2年生	1220
未回答	11
総計	3075

(2) お世話をしている家族の有無(問2)

お世話をしている家族がいると回答した小学5年生は267人(14.6%)、中学2年生は76人(6.2%)で、総計343人(11.1%)であった。



(3) -① お世話を必要としている家族の続柄 (問3)

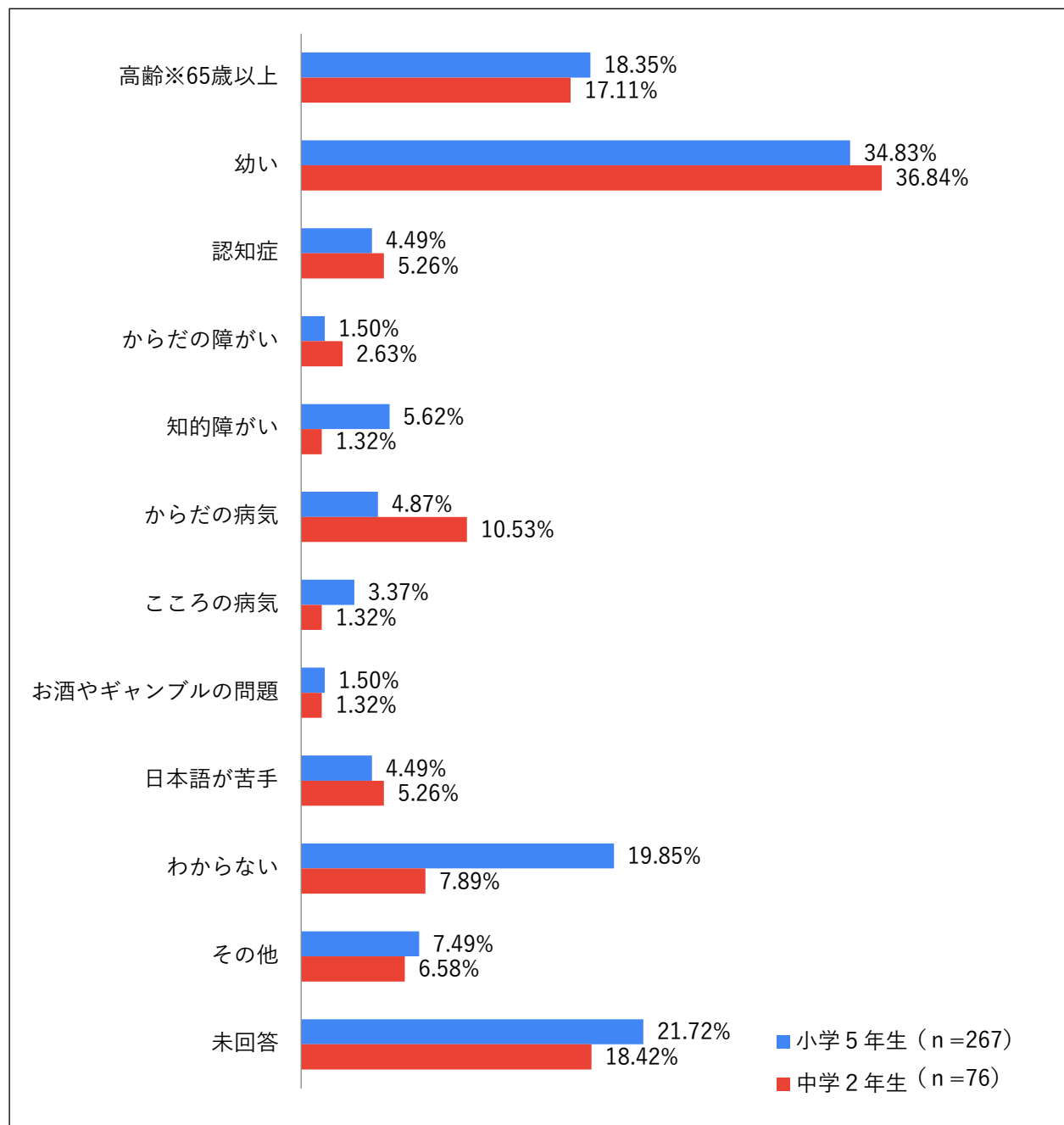


(3) -② お世話を必要としている家族の続柄「その他」詳細（自由回答）

お世話を必要としている家族の続柄について「その他」と回答した対象者から 20 件の自由回答（小学生 15 件、中学生 4 件）があり、その内容を検討した。曾祖父母 4 件、いとこ 2 件、人以外で飼っているペット（犬、うさぎ、ハムスター、亀、魚、カナヘビ等）が 9 件であった。

(4) -① お世話を必要としている家族の状態（問4）

お世話を必要としている家族の状態は、小学 5 年生（34.8%）・中学 2 年生（36.8%）ともに「若い」が最も多い。次に小学生は「わからない」（19.8%）、「高齢※65 歳以上」（18.3%）の順に多く、中学生では「高齢※65 歳以上」（17.1%）、「からだの病気」（10.5%）の順に多い。



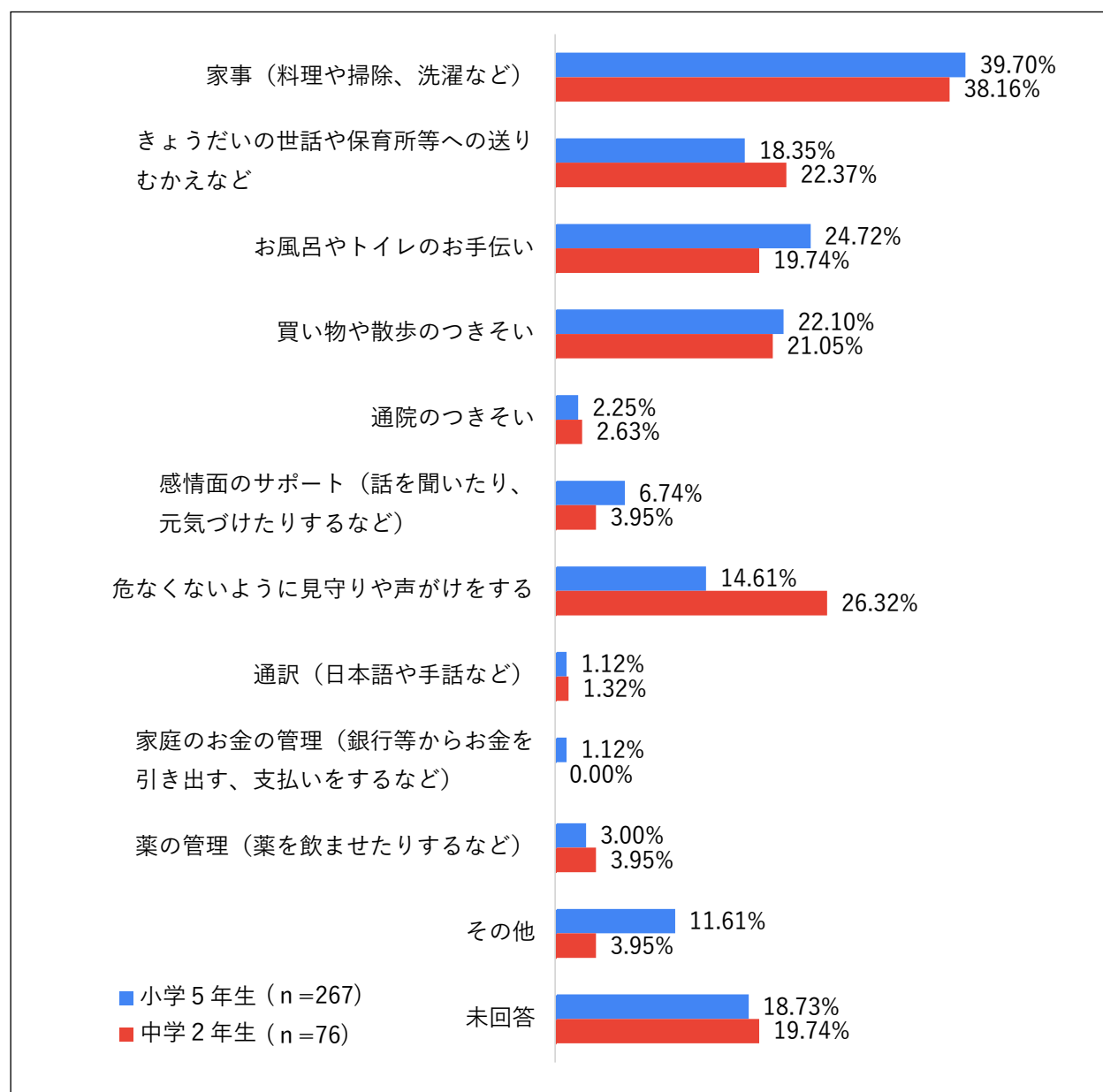
(4) -② お世話を必要としている家族の状態「その他」詳細（自由回答）

お世話を必要としている家族の状態について「その他」を選択した対象者から 25 件（小学 5 年生 20 件、中学 2 年生 5 件）の自由回答が得られ、その内容を検討した。

「お母さんが忙しいから、お母さんの仕事を少しでも減らすため」「親が家事などで忙しいときに一緒に遊んだり、一緒にお留守番したりしている。」「仕事で疲れている」といった親の状況を背景に、家事やきょうだいの世話をしている様子が 5 件あった。また、「ADHD」「アスペルガー症候群」「知的障がい気味」といった具体的な病名や障害名を書いたものが 5 件、「皿洗い」「料理を作る」といった具体的に行っている家事を回答したものが 4 件であった。

(5) -① 行っているお世話の内容（問 5）

行っているお世話の内容では「家事（料理や掃除、洗濯など）」が最も多く、小学生 39.7%・中学生 38.1%となっている。次に小学生は「お風呂やトイレのお手伝い」24.7%、「買い物や散歩のつきそい」22.1%の順で多い。中学生は「危なくないように見守りや声かけをする」26.3%、「買い物や散歩のつきそい」21.0%の順で多い。

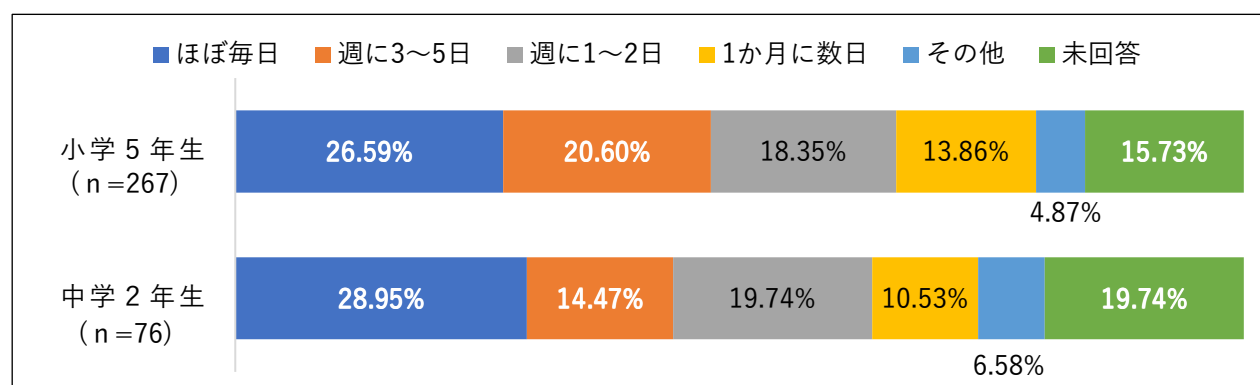


(5) -② 行っているお世話の内容「その他」詳細（自由回答）

家族へのお世話の内容について、「その他」を選択した対象者から 36 件（小学生 31 件、中学生 5 件）の自由記述回答が得られた。内容としては、きょうだいの世話や一緒に遊ぶ（6 件）、お風呂の手伝いや着替え等の生活のサポート（2 件）、生活上の移動の介助（1 件）、施設に会いに行く（1 件）、勉強を教える（1 件）、心のケア（1 件）、店の手伝い（1 件）、ごみ捨てなど家事（3 件）、ペットの世話（6 件）、なにもしていない（3 件）であった。

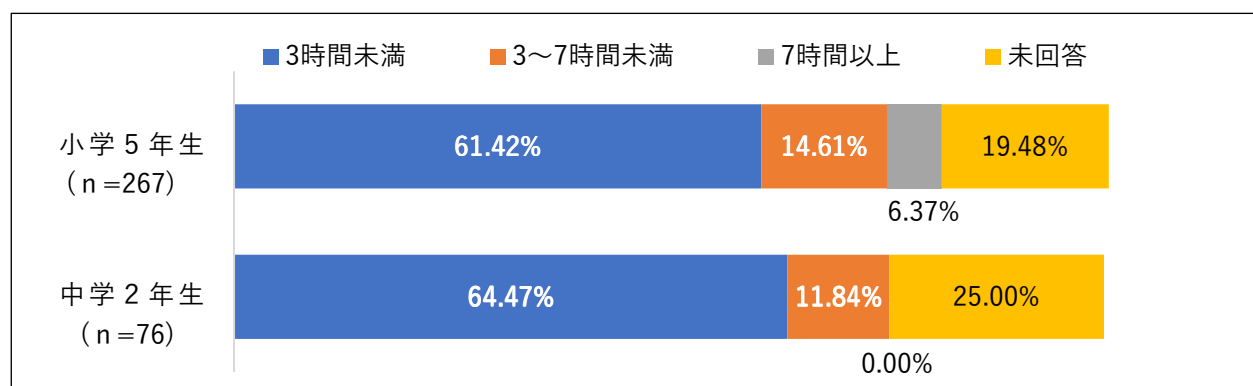
(6) お世話をしている頻度（問 6）

お世話をしている頻度は、小学生（26.5%）・中学生（28.9%）ともに「ほぼ毎日」が最も多く、続いて小学生は「週に 3～5 日」（20.6%）が多く、中学生は「週に 1～2 日」（19.7%）の順に多い。



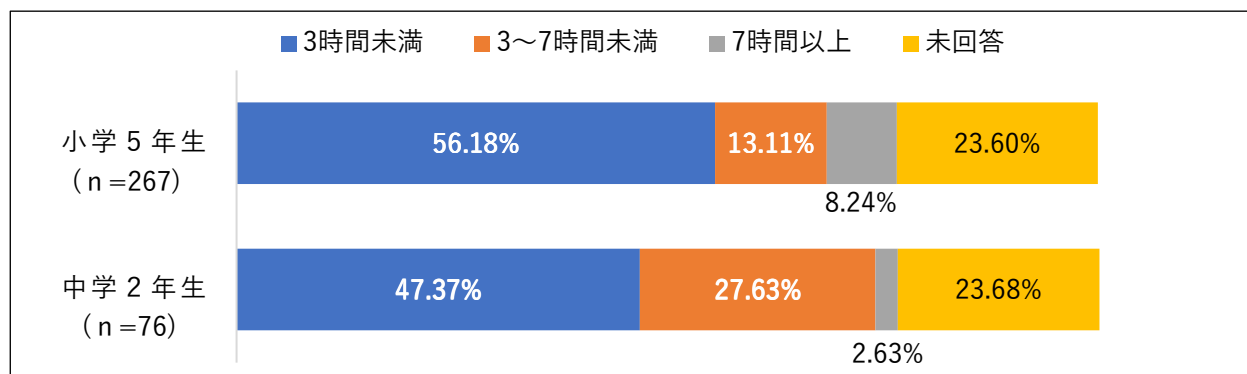
(7) 一日あたりのお世話に費やす時間（平日）（問 7）

お世話に費やす時間（平日）は、小学生（61.4%）・中学生（64.4%）ともに「3 時間未満」が最も多い。小学生は「7 時間以上」が 6.3%であった。



（８）一日あたりのお世話に費やす時間（平日以外の日）（問８）

お世話に費やす時間（平日以外の日）は、小学生（56.1%）・中学生（47.3%）ともに「3 時間未満」が最も多い。平日と比べると中学生の「3～7 時間」（27.6%）の割合が多くなった。



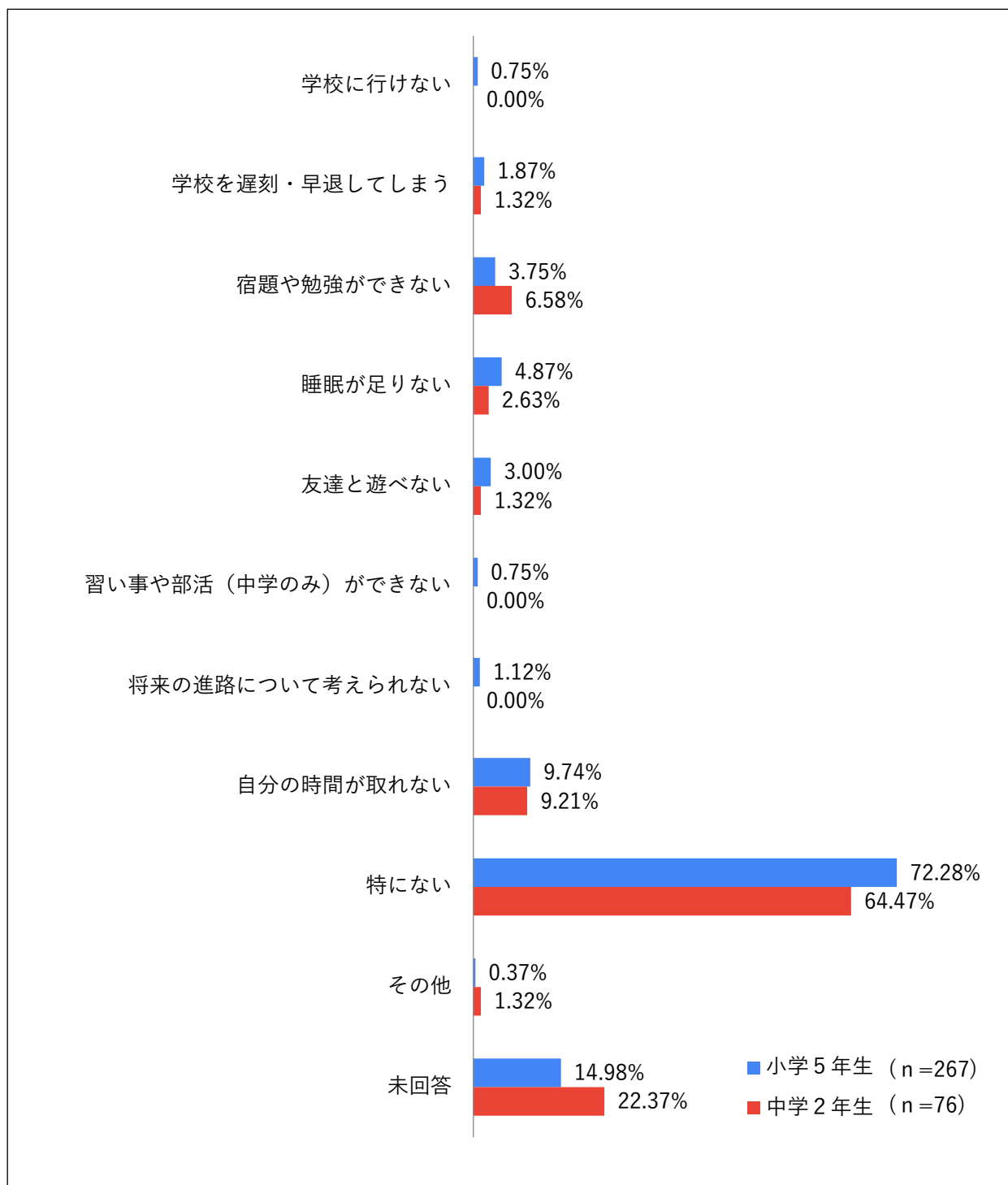
お世話をしている頻度と一日あたりのお世話に費やす時間（平日）で見ると、「ほぼ毎日」「週に 3～5 日」と回答した 159 人のうち、「3～7 時間未満」「7 時間以上」と回答したのは 50 人であった。全体の約 3 割の人は、日常的に家族のお世話を長時間行っていると考えられる。

また、頻度は「週に 1～2 日」と回答した人のうち、「3～7 時間未満」「7 時間以上」と回答したのは 7 人であった。全員小学 5 年生で、頻度は少ないものの長時間かけての家族のための家事や、親や祖父母のお風呂やトイレの手伝い、きょうだいの世話をしている。

(9) お世話をしているためにできていないこと (問9)

お世話をしているためにできていないことは、小学生・中学生とも「特にない」が最も多い。続いて小学生では「自分の時間が取れない」(9.7%)、「睡眠が足りない」(4.8%)となっている。中学生では「自分の時間が取れない」(9.2%)、「宿題や勉強ができない」(6.5%)の順となっている。

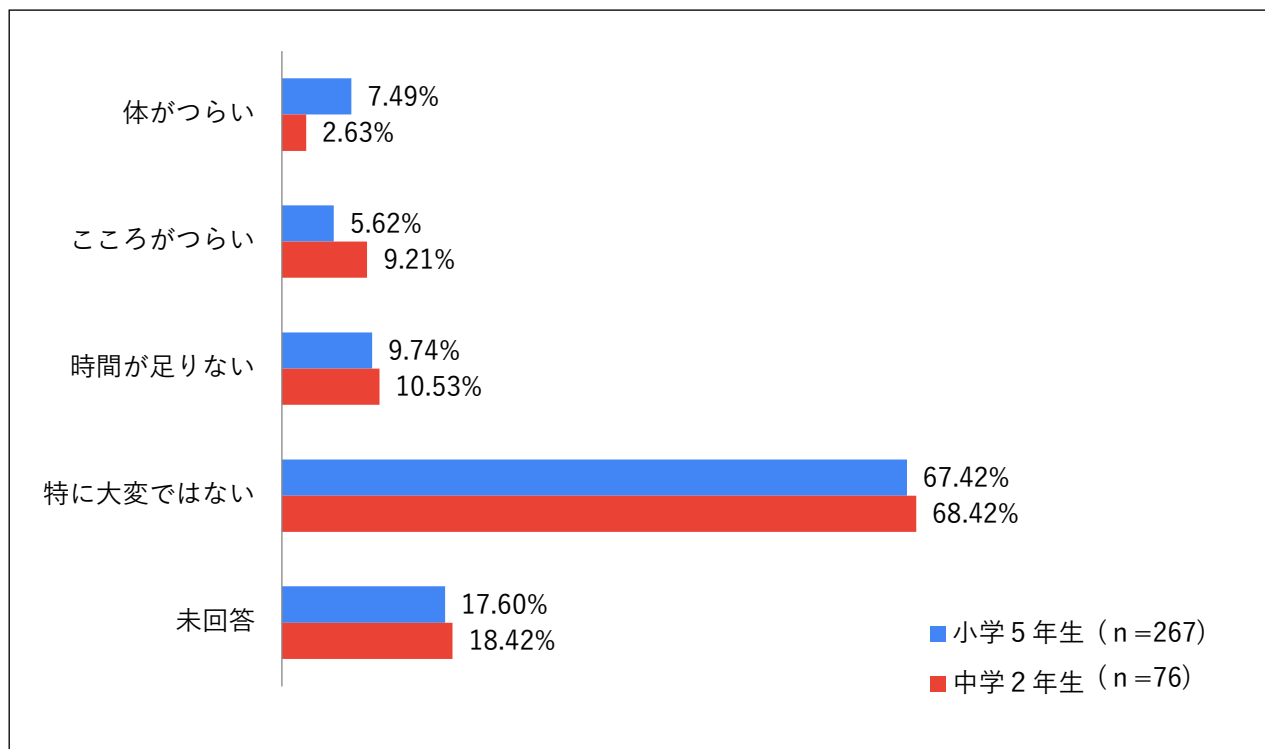
お世話をしているためにできていないこと「その他」の自由回答として、「ひいおばあちゃん家に行ったときに、すごく心配でやっている」とあった。



(10) お世話をすることを感じている大変さ（問 10）

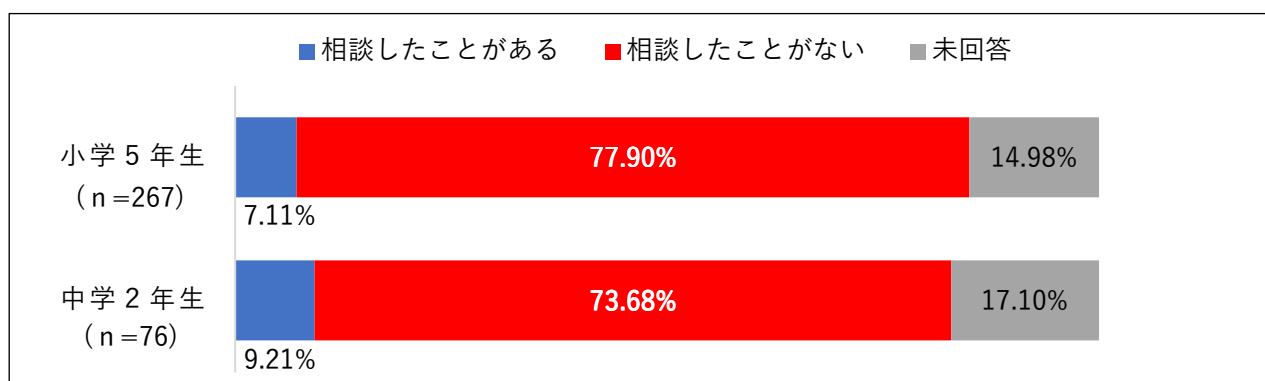
お世話をすることに感じている大変さは、小学生（67.4%）・中学生（68.4%）ともに「特に大変ではない」が最も高くなっている。約 3 割の小中学生がお世話することの大変さを感じている。

次に小学生では「時間が足りない」「体がつらい」「ころがつらい」と続くが、中学生では「時間が足りない」「ころがつらい」「からだがつらい」の順となっている。



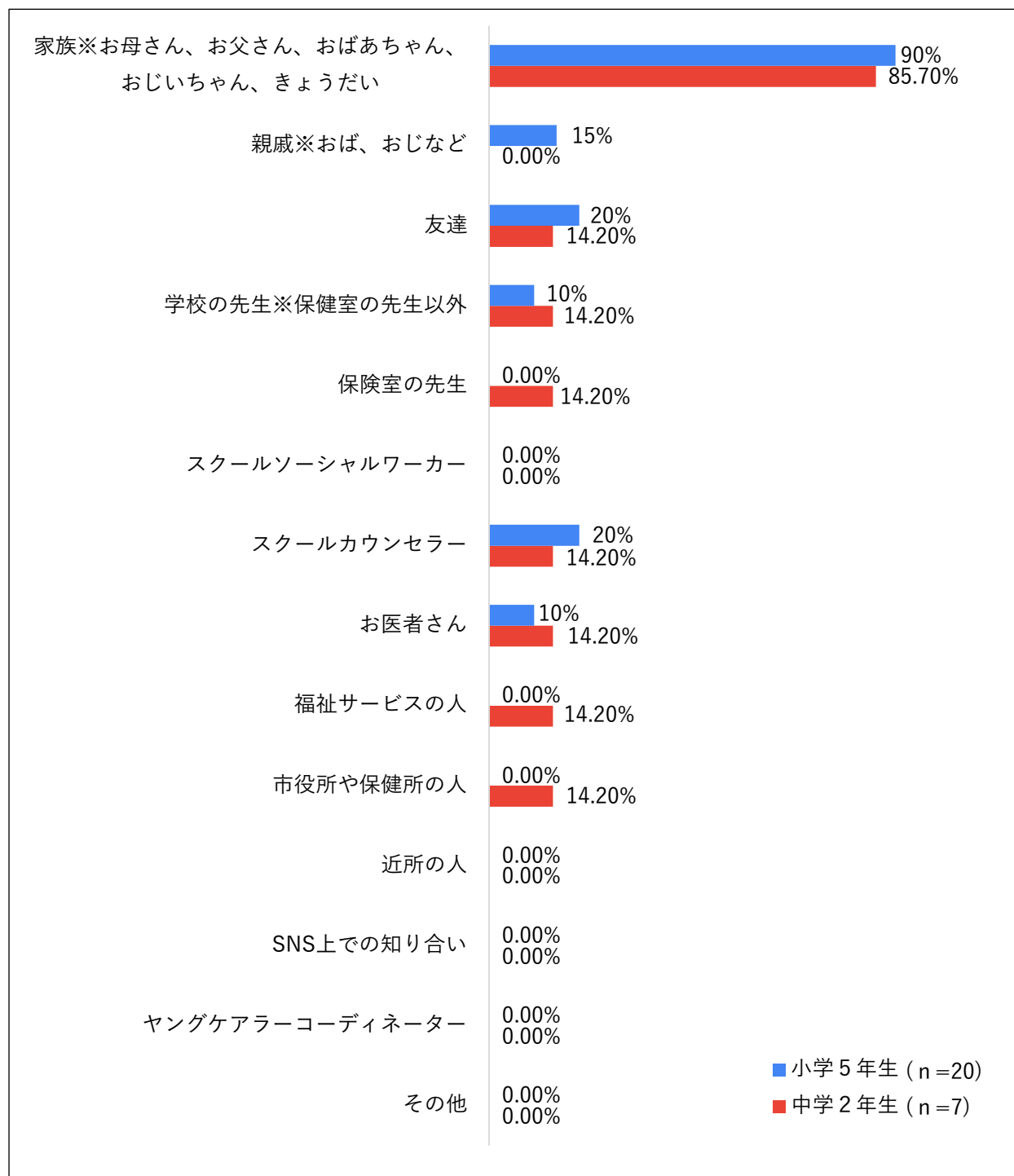
(11) お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した経験の有無（問 11）

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを「相談したことがある」小学 5 年生は 20 人(7.11%)、中学 2 年生は 7 人(9.21%)であった。「相談したことがない」が小学生 208 人(77.9%)、中学生 56 人(73.68%)で、ともに「相談したことがある」を大きく上回っている。



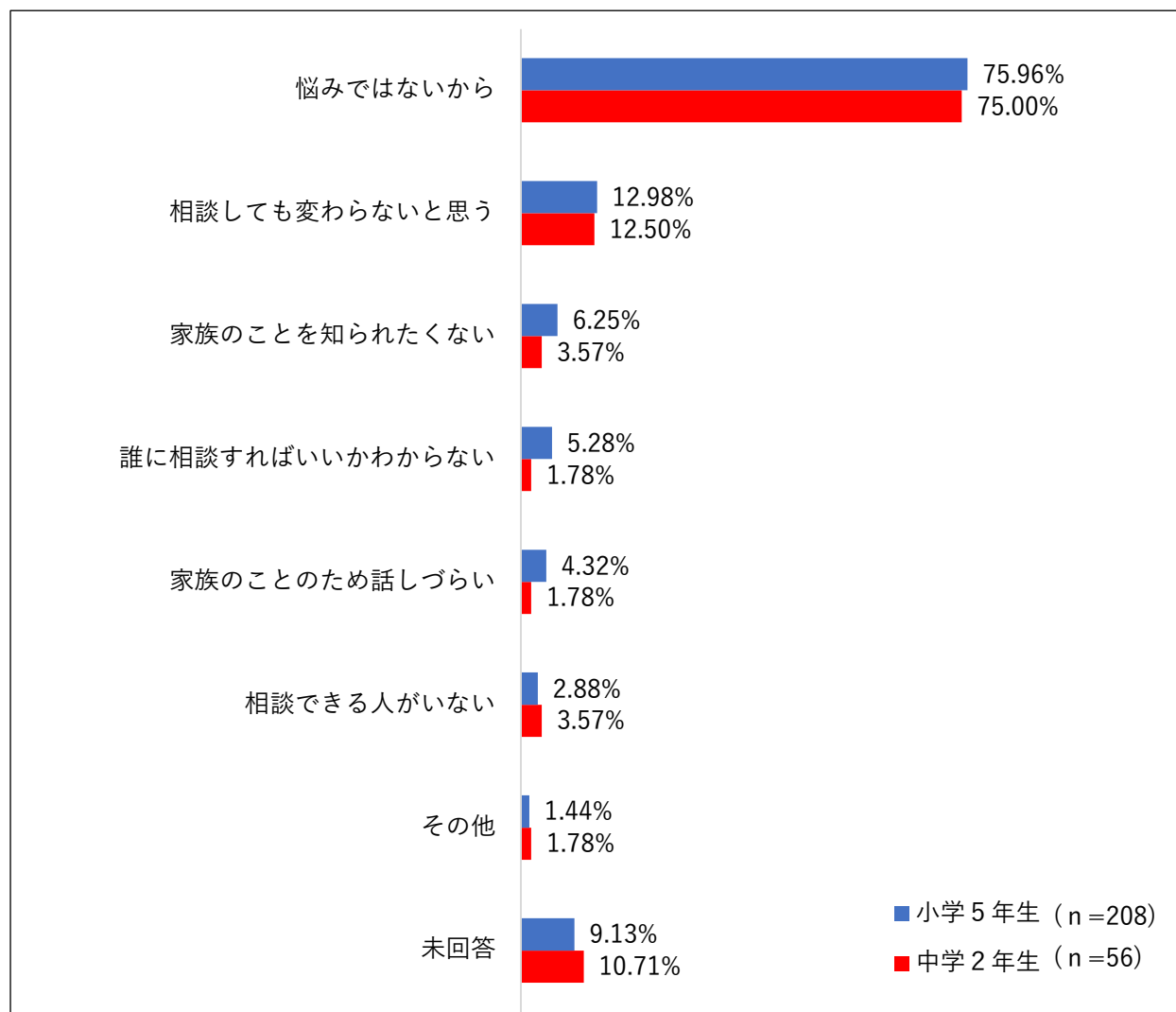
(12) 世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した相手（問 12）

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した相手は「家族（母親、父親、祖母、祖父、きょうだい）」が最も多く、いずれも 80%を超えている。



(13) -① 相談していない理由 (問 13)

お世話の悩みやお世話を要する家族のことを「相談した経験がない」と回答した対象者にその理由をたずねた結果、小学生・中学生すべてで「誰かに相談するほどの悩みではないから」が最も多く、いずれも 70%を超えている。次に、「相談しても変わらないと思う」が多い。中学生では「家族のことを知られたくない」「相談できる人がいない」が 3.57%で同率となっている。小学生では、「家族のことを知られたくない」「誰に相談すればいいかわからない」の順になっている。

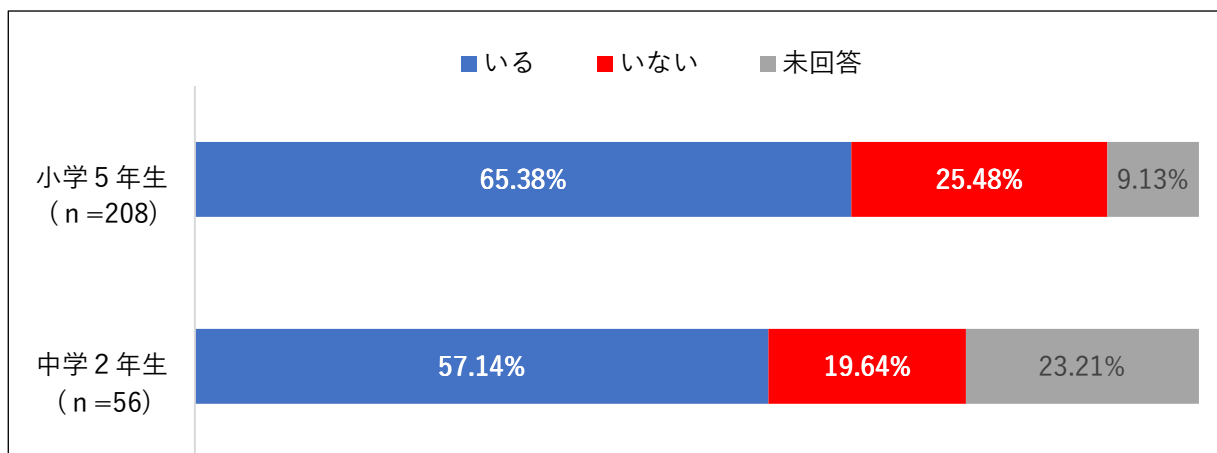


(13) -② 相談していない理由「その他」詳細 (自由回答)

相談していない理由として「その他」を選択した対象者から 6 件、「そんな大したことじゃないから」「いつも親に言われてやるから。」「すぐに終わるから」「特にない」「そもそもお世話をしていない」「ひつようないから」という回答があった。

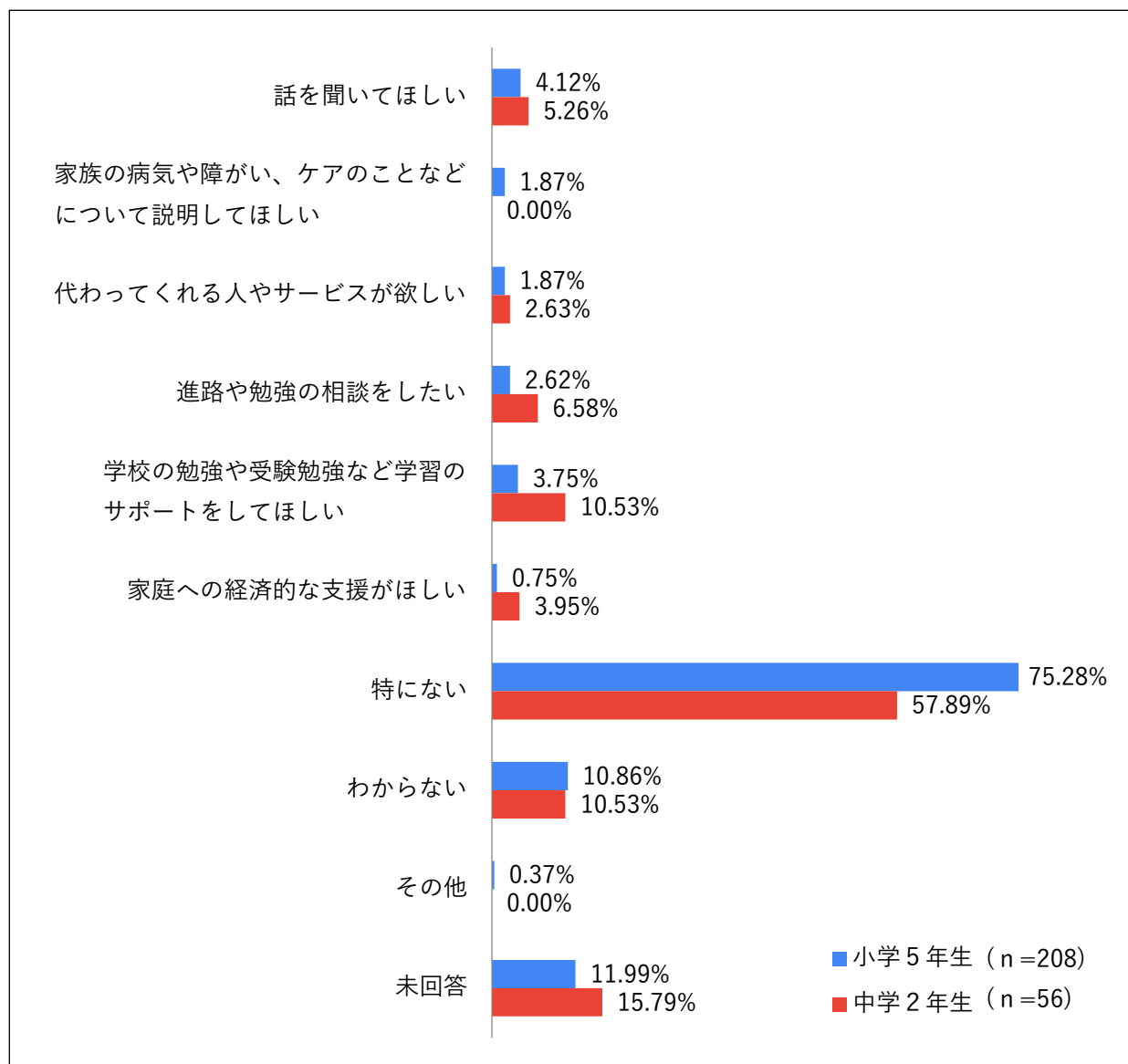
(14) 身近でお世話の悩みを聞いてくれる人の有無（問 14）

お世話の悩みやお世話を要する家族のことを「相談した経験がない」と回答した対象者に身近でお世話の悩みを聞いてくれる人がいるかをたずねた結果、小学生・中学生ともに「いる」が「いない」を大きく上回った。



(15) ー① 助けてほしいことや必要としている支援について (問 15)

あなたにとって助けてほしいことはあるかをたずねたところ、小学生・中学生ともに「特にない」が最多であるが、小学生（75.28%）と中学生（57.89%）では 17 ポイントの差がある。また、具体的に助けてほしいことや必要としている支援内容を示した選択肢の回答状況からは、学年に応じ必要としている支援のニーズの違いが推測される。小学生は「話を聞いてほしい」（4.12%）、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」（3.75%）の順に多いが、中学生は「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」（10.53%）、「進路や勉強の相談がしたい」（6.58%）、「話をきいてほしい」（5.26%）の順となっている。



(15) ー② 助けてほしいことや必要としている支援「その他」詳細 (自由回答)

あなたにとって助けてほしいことや必要としている支援について「その他」を選択した対象者から 2 件、「小 3 男子が怒ったときのなだめ方がわからない」「家族や学校の先生に話したことがあるので大丈夫だと…思います！…今は大丈夫です」という回答があった。

(16) 相談を希望した児童・生徒について

相談を希望した児童・生徒は、小学5年生5件、中学2年生1件であった。相談方法として、「学校で会う」2件、「電話」1件、「メール」1件、「無回答」2件であった。「学校で会う」を選択した人については、学校と日程調整を行って面談を実施した。

	小学5年生	中学2年生	合計
希望する	5	1	6
希望しない	234	65	299
未回答	28	10	38

(17) ① 意見や要望など自由記載

「コメントや感想、要望など、なんでもお書きください」と自由意見を求めたところ、全体で103件の回答が得られた。まず、それらの回答内容を検討したうえで5カテゴリに分類した(表1)。

その結果、自由回答全体(表1)では「感想・意見・要望」(32.0%)が最も多く、次いで「お世話している子どもの声」(15.5%)、「アンケートの感想」(7.75%)となった。

表1 自由回答全体の分類

No.	カテゴリ名	n	%	内容(キーワード・キーセンテンス)
1	感想・意見・要望	33	32.0	・ヤングケアラーという言葉や存在を初めて知った。 ・ヤングケアラーが身近に多く存在していることを知った。 ・高齢者や障害のある人を支える介護の大変さについて理解が深まった。 ・困っていることがあれば、親に相談しようと思った。 ・大きな悩みはなくても、相談できる場所があることは重要だと感じた。 ・障害のある人や介護を必要とする人が、より負担なく生活できるよう、支援や施設の充実が必要だと感じた。
2	お世話をしている子どもの声	16	15.5	・日常的に担っている世話や役割について、大変さはあるが楽しい時間でもある。 ・世話や役割について苦痛ではなく生活の一部として捉えている。 ・自分のことよりも、家族のために行動しようと考えている。 ・困っている、助けを求めているという認識は持っていない。
3	アンケートの感想	8	7.7	・アンケートが回答しやすく、気持ちが整理された。 ・進路について考えやすくなった。 ・伝えたいことを話すことができ、気持ちがすっきりした。
4	相談・悩み・強い意見	7	6.7	・親には伝えないでほしいという希望がある。 ・学校で話がしたいと感じている。
5	特になし	39	37.8	・特になし

5. まとめ

(1) 家族のお世話をしている児童・生徒の把握

お世話をしている家族がいると回答した児童は、小学5年生 267人 (14.6%)、中学2年生 76人 (6.2%) で、総計 343人 (11.1%) であった。2023年度の調査では、小学生 488人 (15.4%)、中学生 301人 (7.6%) と比べると、やや少なくなっているが、概ね傾向は類似している。

2023年度調査と同様に、お世話の頻度や時間を考慮し分析すると、ヤングケアラーと思われる子どもは、小学5年生から高校生世代の児童・生徒の 8.6% (約 265人) と推定される。そのうち、世話をしているため、やりたいことができないことが1つ以上あると回答した子どもは、何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子どもと考えられ、1.1% (約 36人) だった。2023年度調査を比較すると、ヤングケアラーは、3.2%増加している結果となった。

		参考 2023年度 小学5年生から 高校3年生 17,401名	2025年度 小学5年生 中学2年生 4,110名
ヤングケアラー定義 (厚労省ホームページ)	調査結果を用いた条件設定	100.0% (7,825人)	100.0% (3,064人)
本来大人が担うと想定 されている家事や家族 の世話などを	世話をしている家族が「いる」 不定期のもの、比較的 軽微なお手伝いの範疇のもの等を含む	10.3% (約 809人)	11.1% (約 343人)
日常的に行っている 子どものことで	家族の世話を「週3日以上」 行っている、又は、「週2日 以下」だが1日あたり3時 間以上行っている	ヤングケアラーと思われる子ども 5.4% (約 426人)	8.6% (約 265人)
責任や負担の重さによ り、学業や友人関係な どに影響が出てしまう ことがある	世話をしているためにやり たいけどできないことがあ る (1つ以上に該当)	何らかの影響が出ていて、 支援が急がれる子ども 1.7% (約 131人)	1.1% (約 36人)

※1.上記の条件設定はあくまで調査結果に基づく推定による設定であり、支援の対象を限定するものではない。

※2.推定数算出においては端数処理等を行っているため、児童生徒全体の人数に割合(%)を乗じた数値とは一致しない。

(2) 家族のお世話の状況

小学生 (267人) がお世話している相手は、「きょうだい」が 41.5%、「母親」が 28.4%、「父親」が 20.2%の順であった。また、お世話の理由は「幼い」(34.8%)、「わからない」(19.8%)、「高齢」(18.3%)、4番目以降は「知的障がい」「からだの病気」「日本語が苦手」「認知症」「こころの病気」

と続く。お世話の内容としては、「家事（料理や掃除、洗濯など）」（39.7%）、「お風呂やトイレのお手伝い」（24.7%）、「買い物や散歩のつきそい」（22.1%）の順である。

次に、中学生（76人）がお世話している相手は、「きょうだい」が44.7%、「母親」が19.7%、「父親」が11.8%であり、お世話の理由は、「若い」（36.8%）、「高齢」（17.1%）、「からだの病気」（10.5%）、4番目以降は「わからない」「日本語が苦手」「認知症」「からだの障がい」と続く。また、お世話している家族の状況を「わからない」と回答したのは7.8%で、小学生（19.8%）よりも低く、中学生になると家族の状況を把握することが可能となってくると考えられる。

お世話の内容は、「家事（料理や掃除、洗濯など）」（38.1%）、「危なくないように見守りや声かけをする」（26.3%）「きょうだいの世話や保育所等への送りむかえなど」（22.3%）、「買い物や散歩のつきそい」（21.0%）、「お風呂やトイレのお手伝い」（19.7%）の順が多い。

（3）家族のお世話をすることによる影響

お世話をしているためにできていないことは、小学生（72.2%）・中学生（64.4%）が「特にない」と最も高くなっている。続いて小学生では「自分の時間が取れない」（9.7%）、「睡眠が足りない」（4.8%）となっている。中学生では「自分の時間が取れない」（9.2%）、「宿題や勉強ができない」（6.5%）の順となっている。

お世話をするに感じている大変さは、小学生（67.4%）・中学生（68.4%）ともに「特に大変ではない」が最も高くなっている。約3割の小中学生がお世話することの大変さを感じている。

小学生では「時間が足りない」「体がつらい」「こころがつらい」と続くが、中学生では「時間が足りない」「こころがつらい」「体がつらい」の順となっている。お世話をする子どもすべてに生活への影響や負担があるわけではないが、つらさを感じている子どもは一定数いることが確認された。

お世話の悩みについて相談する経験が「ない」と回答した小中学生は7割を超えている。その理由については、「誰かに相談するほどの悩みではないから」と回答した子どもが大半である。

（4）相談を希望した児童・生徒について

相談を希望した児童・生徒は、小学5年生5件、中学2年生1件であった。相談方法として、「学校で会う」2件、「電話」1件、「メール」1件、「無回答」2件であった。ヤングケアラーと思われる子ども（約265人）のうち、支援が急がれる子どもは約36人と推測されるが、実際に「相談をしたい」と申し出をする子どもは非常に少ないことがわかった。

参考資料

本調査における参考資料は下記の府中市ウェブサイトにて閲覧、ダウンロードが可能です。

府中市ウェブサイト『ヤングケアラーに関するアンケート調査を行います』（府中市子ども家庭部子ども家庭支援課作成）

https://www.city.fuchu.tokyo.jp/kosodate/shussan/sodan/yc_chousa.html



令和7年度 府中市ヤングケアラー実態調査報告書

発行日 令和8（2026）年3月

発行 一般社団法人ケアラーワークス

編著者 一般社団法人ケアラーワークス

〒183-0022 東京都府中市宮西町4丁目13番地4番とりときハウス302
TEL 042-309-5130

府中市子ども家庭部子ども家庭支援課

子育て世代包括支援センター「みらい」

〒183-0023 京都府中市宮町1丁目41番地 フォーリス3階
TEL 042-319-0072

調査協力 竹川章博

編集協力 notes（野手香織）

この調査報告書は日本財団の助成（ヤングケアラーと家族を支援する自治体モデル（東京都府中市））により作成されました。

